

## 「アメリカでつかみ取りたいもの」

北海道札幌南高等学校 普通科 1年 鈴木翔太

中学生の頃、僕は数名の友人とボランティア活動を行っていた。活動の内容は、自分たちで飲食店などを訪ねて募金箱などを設置させていただき、集まった募金をインドのストリートチルドレンを支援されている現地の方に送り、活用してもらおうというものだった。たくさんの人にお世話になり、少しずつ集められた金額も増えてきていた。しかし結局、中学生の終わり頃には自分たちがさらに多忙になって、活動を続けられなくなってしまった。募金して下さった分についてはしっかりと送り届け、支援に使っていただけたが、目標には遠く及ばず活動は終わってしまった。熱意はあったし、支えてくれる人もたくさんいた。それでも、自分たちの計画の甘さや、目標を実現させる力が自分に無かったために失敗してしまった。ボランティア活動は誰かを助けたい、何かを解決したいという思いと、支援を必要としている人・ものの橋となる活動だ。その活動がうまくいかなければ支援はできず、この経験のように、かかわった人たちの思いも無駄になってしまう。

今、僕には二つの目標がある。まず、今後近いうちにもう一度ボランティア活動に挑戦することだ。もう一度、教育にかかわる活動をしたい。このボランティア活動をした時に知った発展途上国の教育の現状が強く印象に残っているからだ。教育はその国の未来を左右する。だが現状の自分ではまた失敗してしまうかもしれない。だから自分に足りない、目標を実現する力や行動力などを身に付けたい。そしてもう一つ、実はこのボランティア以前からの僕の目標は、航空宇宙工学を専攻し、将来、国際的な宇宙開発に携わることだった。しかしこの活動を経験してからは、単にそれに携わるだけではなく、その分野の進歩に貢献して成果をもたらす、間接的ではあるが、環境問題についても取り組みたいと思うようになった。ボランティア活動と宇宙開発を通じて、二つの側面から多角的に、今の世界の大きな課題に取り組みたいと思ったのだ。二つ目の目標が実現すれば、研究や開発のために、国の違いやそれによる様々な障壁を超え、多くの人と共働することになるだろう。だが今の自分のままでは、バックグラウンドが全く違う人たちとそういったことをするのにも力不足だ。

だからこそ、このホームステイから得られるものは、自分の二つの目標にとって大きな意味がある。まず、慣れない環境でコミュニケーションにも苦勞するだろう。自らその状況を打開するために必死になるなかで、行動力と語学力を高められる。今までの、英語を学ぶ段階から、英語を使って学ぶ・知れるようになるための大きなチャンスにもなる。当然、自分の思いをうまく伝えられないことも多いだろうが、それを乗り越えることで、話せる・使える英語へと高めていけるはずだ。また、価値観の違いについても知れる。周囲がほぼ日本人だけの環境では、大きく異なった意見や考え方などに触れることは少ない。対して、「人種のサラダボウル」であり、今まさに人種差別問題などで揺れているアメリカでは、異なる価値観をどう捉え、どう乗り越えているか。単に価値観の違いを知るだけ

でなく、それをどうすればよいか身をもって知り、考えることで、自分の価値観、常識や考え方だけにとらわれない、多角的なもの見方に近づける。また、実際のホームステイや海外での生活は自分にとってほとんど未知の領域だ。北海道から遠く離れた全く違う環境から自分を見つめ直すことで、新たな気づきを得たり、普段の慣れた環境では気づけなかった自分の欠点を知れるかもしれない。現地に飛び込んでしかわからないものを知れることも、ホームステイの魅力だと思う。

このホームステイプログラムに参加できたら、今まで得られなかったことを知り、学び、身に付けるチャンスが得られる。自分や日本との違いや、逆に共通することも知れるかもしれない。そして自分の二つの目標の実現に大きく近づけるはずだ。同時に、そのチャンスをもらえたならばすべきこともある。ホームステイ後、周囲の人に、自分が学んだり感じたりしたものを伝えることだ。得られる経験を自分の中だけで留めず、周囲にも刺激を与えたい。そして、このプログラムに参加し得られるものを活かして、最終的には目標を実現させ、多くの人や社会に貢献するという形で、得たものを自分だけでなく、多くの人にとって意味のあるものにしたい。僕の目標は実現するには少し大きすぎて、今の自分では、成し遂げられずにただの夢のようなものとして終わってしまうかもしれない。だがこのプログラムは、それを成し遂げられる力を養える、大きなチャンスだ。貧困と環境の問題の二つの面から、今の世界が抱える課題に挑める人間を目指していきたい。そのために必要なものを、このホームステイで得たい。